

地域とつながり地域に学ぶ

～愛媛大学社会共創学部だより～

伝統と新しい文化が 交わる街・道後で

愛媛大学社会共創学部
環境デザイン学科 4回生

村瀬 あみ



はじめに

私が生まれ育った道後は、日本最古の温泉といわれる「道後温泉本館」を中心に、多くの観光客が訪れる街です。3000年の歴史を誇る温泉文化や、神社仏閣、明治期の建築など、伝統が色濃く息づく一方で、アートや新しい取り組みも盛んに行われています。そんな環境の中で育った私は、自然と地域の文化や人々と深く関わりながら、地域の未来づくりに貢献したいという思いを抱くようになり、社会共創学部を志しました。

「ひみつジャナイ基地」との出会い

その思いを強くしたきっかけのひとつが「ひ



ひみつジャナイ基地 外観

みつジャナイ基地」です。これは2019年から2021年にかけて開催された道後アートプロジェクトの一環として誕生したアート作品であり、同時に地域交流の拠点でもあります。全国から集まった若手建築家のアイデアをもとに制作され、神社仏閣の曲線屋根をモチーフにした独特のデザインが特徴です。

この場所を初めて訪れたとき、ただの展示空間ではなく、人と人が自然に出会い、対話を生む場になっていることに驚きました。スタッフが来場者同士の交流を促してくれたり、「小



ひみつジャナイ基地 内観

さなひみつ」をカードに書いて飾る体験を通じて、国籍や年齢を超えた人々の思いがひとつの空間に集まっていく——その様子が胸が温かくなつたのを覚えています。多様性を認め合い、互いのひみつを共有する理念は、SDGsの「誰ひとり取り残さない」という目標にも通じています。

道後の魅力と地域文化の体感

道後は、伝統と新しい文化が響き合う街です。伊佐爾波神社や宝厳寺、湯築城跡など歴史的名所が点在する一方で、近年はアートと融合させた新しい施設も生まれています。私自身、幼いころから地元のお祭りに参加し、浴衣をまとい踊りの輪に入ること、観光客と地元の人が笑顔で一体になる瞬間を体感してきました。そうした経験が「地域文化を未来につなげたい」という私の根っこを育ててくれたのだと思います。

NPO団体「イトコ道後」での挑戦

大学に進学してからは、地域貢献への思いをさらに行動に移したいと考え、NPO団体「イトコ道後」に参加しました。活動を通じて気づいたのは、道後温泉本館の周辺は観光客で賑わう一方、その奥にある宝厳寺や円満寺、ひみつジャナイ基地といった「隠れた名所」の存在が十分に知られていないことです。

そこで私たちは「裏道後ツアー」を企画しました。例えば、宝厳寺で道後銘菓を味わいながら夕日を眺める「夕焼けベンチ」など、体験を通して観光客に奥の道後へ足を運んでもらう仕掛けを作りました。観光の分散を促し、街全体



宝厳寺から見える風景

に活気を広げていくことが目的です。
また、印象深い活動のひとつが夏祭りです。ひみつジャナイ基地を会場に、子どもたちと一緒にランタンを作るワークショップを行いました。



夏祭りのランタン



夕焼けベンチ 裏道後ツアー

出来上がったランタンに灯をとめると、基地全体が温かい光に包まれ、地域の人や観光客が一体となる光景が広がりました。子どもたちの笑顔や、世代を超えた交流を目の当たりにし、地域活動が持つ力を実感しました。

ひみつジャナイ基地から広がる未来へ

ひみつジャナイ基地は、道後の新しい魅力を象徴する拠点です。しかしその存在を知らずに帰ってしまう観光客もまだ多いのが現状です。私はこれからも、イトコ道後の活動を通じて、基地や寺社仏閣といった「隠れた名所」を発信し、道後の奥深さをより多くの人に届けたいと考えています。

温泉という伝統の核を中心に、新しい文化や国際的な交流を結びつけることで、人と人、地域と世界がより豊かにつながる道後の未来を築いていきたいです。そして生まれ育ったこの街の魅力を、これからも自分自身の言葉と行動で発信し続けたいと思います。



道後オンセナート